

浜松市議会議員

田口 章 後援会
だより

お気軽にどうぞ

昼 053 - 447 - 3820

夜 053 - 440 - 7100

平成 20 年 3 月 17 日

創ろう！元気な浜松

やすともカラー 満載

浜松市議会 2 月定例会中間報告

平成 20 年度予算(案)を審議中

浜松市議会では、2 月 20 日から 3 月 21 日の会期で 2 月定例会を開催しています。すでに先週までに、平成 20 年度予算案審議を各委員会で終え、あとは 21 日の最終日の本会議での採決を待つところです。

私は「環境経済委員会」に所属し、産業政策や環境・衛生関係予算の審議に携わってまいりました。

予算項目以外では、委員会の最大の論議ポイントは「フォルテ」の今後の運営です。引き続き継続して議論していきますが、簡単な途中経過をご報告することとし、予算全般をとおして見たポイントとあわせてご報告します。



全般

総予算は 4667 億円で、H19 年度の 4987 億円から微減。一般会計は 2668 億円と H19 年度の 2622 億円より微増に見えますが、「繰り上げ償還」や「土地の購入と売却の相殺」を考えれば、ほぼ前年度なみとなります。

借金

一般会計の新たな借金は 229 億円。H19 年度の 224 億円よりも増えます。大きなモノとして、北遠地域の防災対策用「消防ヘリコプター」の購入と施設整備や、工場用地の取得などがあげられます。

企業会計や特別会計を含めた「総会計」の借金は 440 億円、返済は 532 億円。この結果、借金残高は、H19 年度末の 5550 億円から 5458 億円に、約 92 億円の減となる見込みです。

「H26 年度末に 5000 億円未満にする」という、健全化目標に向け着実に進んでいます。

歳出

H19 年度に比べ「土木費」が減り、「民生費」「教育費」が増えています。福祉政策や教育の充実をめざす、やすとも市長の特徴といえます。

「こども第一主義」は着実に前進

こども第一主義の総予算

やすとも市長の最大の特徴的施策である「こども第一主義」にかかる予算は、H19年度の約43億円から73億円となり、約30億円の増額です。

医療費助成の拡充

最大の目玉のひとつ「小中学生 入院医療費助成事業」に1億8千万円を予算化。さらに「通院医療費」については、今後2年間かけて検討していきます。

バースセンターの設置

産科医師不足の中、安心してこどもを産める地域医療体制をつくるため、医療センター内に、助産師さんに活躍してもらう「バースセンター」を設置します(予算6億円)。

30人学級と支援員制度

30人学級を来年度から5校で試行します。現在実施している「小1 多人数学級指導支援員制度」との比較を行い、こどもたちにとって、より良い教育環境を整備していきます。

同時に、浜松市の大きな教育施策の特徴である「支援員制度」も充実します。H19年度526人を619人に増員、とりわけ理科支援員は40人程度に増員します。

わたしの関心の高い「外国人就学支援サポーター」

は25人から30人に引き上げられますが、まだまだ十分ではありません。ただ、時給を@850円から@1200円にすることによって、人材確保はしやすくなったようです(これまでが安すぎます)。

浜松教師塾

若手教員から慕われている教師を“師範”として、経験5年程度の若手“塾生”を育てます。1人の師範に2~3人の塾生をつけ、全部で15塾程度立ち上げます。可能な限り、保護者や市民、塾生以外の若手教師にも公開します。

学校施設耐震化

H27年度までに予定していた「学校施設の耐震化」を、H25年度に前倒して完了するよう、事業のスピードを早めています。

通学路の安全確保

歩道の設置やカラー舗装、側溝の蓋掛けなど、27路線、5255mの通学路の安全確保を実施します(H19年度23路線、3650m)。

その他

細かい話ですが、小中学校でこどもたちの教育のために使う備品や消耗品の購入費をH19年度の8億6千万円から9億7千万円に、約1億円強増やします。これもこどもたちのためです。

行財政改革も順調に進行

補助金の見直し

議会や行革審の指摘により、件数をH19年度の461件から300件に整理統合し、金額も159億円から132億円に減額しています。時代のニーズに合ったものは減らすことなく、行革審の削減目標の5%を超える、9.1%の削減となっています。

ファシリティマネジメント

資産管理の一元化のために、組織の見直しの中で

「資産経営課」を設置し、縦割り行政に横串をとおり、保有施設などの資産管理の適正化を行います。

その他

以上の他にも、定数管理を進め、固定費の節減を進めている他、病院経営の見直しや外郭団体への関与のあり方を見直しなど、これまで当たり前に進めてきた施策について、新たな見直しが行われます。

私も問題発見能力を磨きます。

「フォルテ」の現状について (3/12 環境経済委員会報告)

「フォルテ」は今から約 18 年前の平成 2 年 11 月にオープンしました。

現在の土地は、もともと遠州鉄道が 3 割、旧国鉄が 7 割所有しており、昭和 61 年に浜松市が旧国鉄分を購入し、第三セクター「浜松都市開発(株)」を設立して開発したものです。

一昨年、行革審から「年間 1.8 億円をホールの赤字補填に投入」「市の入居施設の賃貸料は銀座並み」などの指摘を受け、その経営課題が明らかになりました。

フォルテには主要な権利者が 3 者あります。その 3 者とは…、「浜松市」「浜松都市開発(株)」「遠州鉄道(株)」です。

フォルテの「土地」は約 1000 坪ありますが、前述のとおり、遠州鉄道が 300 坪、浜松市が 700 坪を所有しています。「建物」は延床面積約 6500 坪のうち、遠州鉄道が約 2000 坪(30.7%)、浜松都市開発(株)が約 4500 坪(69.3%)を所有しています。

「浜松都市開発(株)」の経営状況を見てください。
まず株主は右のとおりです。

【浜松都市開発(株)の株主】

	株数	出資額(万円)
浜松市	4,500	45,000
日本政策投資銀行	2,000	20,000
遠州鉄道(株)	1,000	10,000
(株)静岡銀行	500	5,000
浜松信用金庫	500	5,000
中部瓦斯(株)	500	5,000
西日本電信電話(株)	300	3,000
中部電力(株)	250	2,500
日本トラスティサービス信託銀行	250	2,500
浜松商工会議所	200	2,000
	10,000	100,000

平成 18 年度末の貸借対照表は下表のとおりです。

下表のうち浜松市の債権は、*1 のうち 4.5 億円、*2 のうち 10 億円、*3 のうち 4 億円 となっています。

有形固定資産は、区分所有するフォルテの建物そのものですが、ここには「簿価」が記載されています。先日報告された時価評価額は 23.4 億円とこのことで、この部分だけ見ても 9 億円の債務超過になります。今回示された売却スキームでは、テナント入居者への補償や、解体費用負担などを含め、浜松市は最低でも 14 億円ほどの債権放棄が必要となりそうです。

【浜松都市開発(株)H18 年度末 B/S】

資 産		(百万円)	負 債		(百万円)
流動資産		65	流動負債		443
	現預金	53		短期借入金	193
	その他	12		1年以内返済保証金 *2	151
			その他	99	
固定資産		3,279	固定負債		1,768
	有形固定資産	3,264		長期借入金	270
	無形固定資産	2		入居保証金 *2	932
	投資その他資産	13		預かり敷金 *3	533
			退職給付引当金	33	
			資本		1,133
			資本金 *1	1,000	
			利益剰余金	133	
資産の部合計		3,344	負債・資本の部合計		3,344

同時に示された「浜松都市開発(株)」の平成 32 年まで(築後 30 年)の**財政シミュレーション**では、事業継続した場合、市がこれまでと同じように賃貸料を払い続けても、収支見通しでは、**累計繰越欠損額が約 19 億円**と予想されています。

また資金計画は、施設改修の約 33 億円に運営経費などを加えると、事業としては約 155 億円の借入金が必要とのことです。(施設改修費は浜松都市開発(株)分のみ。遠鉄負担分は別途必要)

「浜松市」の財政シミュレーションも示されています。

売却した場合には、今後の浜松都市開発(株)への補填は不要になりますが、現在入居している市関連施設の新たな入居費用負担が発生し、約 4 億円の経費が必要となります。

フォルテを継続した場合は、引き続き、年 2 億円弱の費用負担が発生し、H32 年までの累計では約 26 億円の経費が必要です。

このシミュレーションでは、**売却した方が負担は 22 億円少ない**ということになります。

売却にあたっては、演劇愛好者の方々からホール存続の要望が出されています。ホールについては、施設や音響は一長一短あるのですが、利用率からみても市内中心部に代替施設があるようです。また現在、売却先に対しても、ホールの設置を要望しており、前向きに検討してくれているとのことです。

前述のとおり、「遠州鉄道(株)」はフォルテビルの区分所有者であり、「浜松都市開発(株)」が建物を売却するときには、協定により事前に了承を得ることになっています。

このことから、「遠州鉄道(株)」を売却先として交渉が進められることとなります。

今後、動きがあれば「環境経済委員会」に報告されることになっています。私からも引き続き情報提供していきます。

最近のブログから 3/13 「少数派」

今日行われた「総務委員会」で、「浜松市教育委員会委員等の報酬及び費用弁償並びにその支給条例の一部を改正する条例案」が審議されました。

タイトルが長くて、何のことかわかりませんよね。乱暴に言えば「審議会の公募委員の報酬を8800円から3000円にする」というものです。(本当はもっと複雑な議案ですが、とりあえず議論になった部分だけに触れます)

市の提案(“原案”と呼びます)は上記のとおりですが、これに対し最大会派から“修正案”が提出され、我が会派を除く、他の全委員が修正案に賛成したというものです。

修正案は上記の部分削除し、審議会委員報酬を「現状のまま据え置く」というものでした。(…中略…)

私は総務委員会には出ていなかったのですが、委員会での議論内容はわかりませんが、この他にもさまざまな意見が出されたと思います。我が会派の委員は採決に際し「退席」しました。本人は“修正案”に賛意もあったようですが、会派として「原案賛成」の意思統一をしたためです。

賛成理由は、もちろん「行財政改革の推進」です。

“原案”にも不十分なところがあります。“修正案”で指摘しているとおり、同じ審議会委員で報酬に差があるところは平等ではありません。私は「大学の先生などの知識経験者以外は、浜松市民であれば、一律3000円で良い」と考えていました。

しかし、この「不平等」を理由に反対することは、「行財政改革の推進」に反します。したがって、我が会派は“原案”で「一步前進」する方を選択しました。100点満点の施策でなくても、80点でも50点でも改革を進めていく…これが我が会派「市民クラブ」の考え方です。(…以下略)

田口のブログ《創ろう！元氣な浜松》

<http://taguchi-hamamatsu.cocolog-nifty.com/blog/>

【編集後記】

先週で予算審議は大きなヤマを越えました。そこで、後援会報3月号をマイナーチェンジし、3月号を発行いたしました。変更内容は次のとおりです。

予算案については賛成多数で可決される見通しですので、P1-2は内容に大きな変更はありません。P3を「フォルテ」の話題に変更し、P4のブログを議論になった条例案のものに変更しました。タイムリーな情報はブログをご覧ください(章)

2月の主な活動

- 01(金) 入野小学校(入っ子まつり)
本田技研浜松製作所工場見学
スズキ労連中央委員会
- 02(土) 入野小学校 PTA 奉仕活動
- 03(日) 浜松西政経フォーラム総会
- 06(水) ムンド・デアレグリア学校5周年式典
- 07(木) 環境経済委員会
- 08(金) 総務委員会傍聴
入野地区自治会長会議
- 09(土) 大平台小学校(学習発表会)
スズキ労組研修会
- 10(日) スズキ労組中央委員会
- 11(月) 行革審傍聴
建国記念の日奉祝式典
- 12(火) 活動報告(スズキ都田)
都市計画審議会
- 13(水) 全員協議会
- 14(木) 活動報告(田端老人クラブ)
- 15(金) 新人議員研修会
入野地区青少年健全育成会常任委員会
- 16(土) スズキ販売労組中央委員会
- 17(日) 西区まつり
- 20(水) 本会議
- 21(木) 環境経済委員会
連合浜松との意見交換会
- 22(金) 入野中学校評議員会
- 23(土) 活動報告(志都呂老人クラブ)
PTA 研究発表会
- 26(火) 多文化共生フォーラム
- 27(水) 本会議～議案説明会
- 28(木) 議案説明会～本会議

3月の主な予定

- 01(土) 入野中学校区青少年健全育成会総会
- 02(日) 行革審傍聴
- 03(月)～ 議案調査
- 06(木)
- 07(金) 本会議(代表質問)
- 09(日) 佐鳴湖クリーン作戦
田端まつり保存会総会
- 10(月) 本会議(代表・一般質問)
- 11(火) 本会議(一般質問)
- 12(水) 環境経済委員会
- 13(木) 常任委員会傍聴
- 14(金) 大都市制度調査特別委員会
- 16(日) 自治会総会
- 18(火) 中学校卒業式
- 19(水) 小学校卒業式
- 21(金) 本会議(最終日)
- 22(土) 保育園卒園式
- 23(日) 静岡文芸大セミナー
自治会総会
- 27(木) 新人議員研修会
入野地区自治会連合会期末総会
- 30(日) 入野地区組風揚げ会会所開き
行革審